

ごあいさつ 運営委員長 内田宏美（島根大学医学部看護学科）



あっという間に月日が流れて、運営委員長 3 年目を迎えました。今年 3 月には、田中マキ子実行委員長の元、山口県立大学において「看護研究－質的・量的アプローチの妙味－」のテーマで第 31 回学術集会が盛会に開催されました。学部学生の発表も数多くあり、研究をスタートした若手の登竜門として定着しつつあると感じました。地方会は日本看護研究学会独自のシステムですが、その意義を再認識する良い機会となったのではないかと思います。

さて、3 月の総会で、事務局で保管している地方会の活動資料を、アーカイブ化してホームページに公開することが決まりました。本地方会には、近畿・四国地方会、近畿・北陸・中国・四国地方会、そして現中国・四国地方会へと脈々と引

き継がれた地方会学術集会の抄録集があります。また、現地方会で毎年発行されてきたニュースレターもあります。そして、昨年発行した 30 周年記念誌もあります。これらは看護学の発展の経緯を物語る貴重な歴史的資料です。これまで、これらを会員に紙媒体で配布し、製本して事務局から事務局へと引き継いで保管してきました。しかし、日本の看護の歩みの一端を示す貴重な資料を、会員・非会員を問わず、多くの人に公開する意義は大きいと考えます。年度中にホームページにアップできるよう、近畿・北陸地方会との協議を重ねているところです。

もう一つ、今年度重要な取り組みがあります。次期運営委員の選挙です。Web による投票になります。ネット環境を整えて、皆さん必ず投票してください。

第 31 回学術集会が山口で開催されました

実行委員長 山口県立大学看護栄養学部 田中マキ子

第 31 回日本看護研究学会中国・四国地方会学術集会を大過なく終えることができ、安堵感でいっぱいです。一重に地方会世話人の先生方、並びに本学スタッフ等皆様からのご支援あったことと深く感謝申し上げます。地理的に不便な所での開催でしたので、お一人でも多くの会員様に楽しく・意義深い学術集会となるよう工夫をしたつもりですが、会員の皆様のご評価はどのようでしょうか。

ご参加いただいた人数は 186 名で、内学生参加は 47 名に上りました。発表は、口演 19 演題、示説 44 演題、合計 63 演題となり活発な意見交換が行われました。ワークショップ、学術委員企画の特別セミナー、いずれも好評でした。

本会を運営するにあたり、地方会の活性化を意識し準備いたしましたが、地方会が抱える課題は大きいとも実感いたしました。演題数に対する参加人数や示説が多い発表形態等、学術集会としての在り方とも関係するように考えました。しかし、学生セッションにおける内容と質は、後進育成の意味から本会の将来を示唆してくれるようにも思いました。後進育成と看護研究の活発化は、同義であるように考えるからです。

今後も「看護研究」を極めることの意義を問い続けると共に、本会が益々発展します事を願いつつ、第 31 回学術集会終了のご報告とご挨拶にかえさせていただきます。

第 31 回学術集会に参加して

島根大学医学部基礎看護学講座 坂根可奈子

平成 30 年 3 月 4 日に山口県立大学で開催された日本看護研究学会中国・四国地方会第 31 回学術集会に参加いたしました。メインテーマ「看護研究－質的・量的アプローチの妙味－」のとおり、質的・量的研究の味わい深さを実感できる学術集会でした。

私は、M-GTA のワークショップと量的研究の特別セミナーに参加しましたが、川口孝泰先生、木下康仁先生、田中マキ子先生の鼎談では、「看護学はこれからの研究次第で大きく変化する可能性を持っている」というメッセージがあり、質的・量的どちらの研究手法でも、真摯な気持ちで粘り強くデータに向き合う大切さを学びました。今回、緊張感のある学生の研究や、熱意のある実践的な研究等、多くの発表がありました。これらの研究が、看護学を変化させる可能性を孕んでいるかもしれないと感じ、看護学の発展に思いを馳せながら公聴しました。今回の学術集会への参加は、看護研究の奥深さや醍醐味について改めて考える貴重な機会になりました。

●平成 29 年度事業報告●

1. 会員数

平成 29 年 4 月現在 1005 名

2. 第 31 回学術集会開催

実行委員長：田中マキ子先生（山口県立大学）

日 時：平成 30 年 3 月 4 日（日）

場 所：山口県立大学看護栄養学部看護学科棟

テーマ：「看護研究一質的・量的アプローチの妙味」

演題数：63 題（学生セッション 18 演題を含む）

参加者：191 名（学生、運営スタッフを含む）

3. 平成 29 年度総会開催

日 時：平成 30 年 3 月 4 日（日）12:30～12:50

場 所：山口県立大学看護栄養学部看護棟 A 会場（F204 講義室）

4. 委員会報告

1) 運営委員会

(1) 第 1 回運営委員会会議

（平成 29 年 8 月 29 日（火）、日本福祉大学東海キャンパス）

①第 30 回学術集会（岡山）の報告

②平成 29 年度補正予算案の承認

③第 32 回学術集会：香川県立保健医療大学（実行委員長：國方弘子先生）、平成 31 年 3 月 17 日（日）、テーマ：「今、一度、看護実践を問う臨床研究—エビデンスを“つくる”“まとめる”“つたえる”“つかう”」

④第 33 回学術集会：徳島文理大学、平成 32 年 3 月 1 日

又は 8 日で調整

(2) 第 2 回運営委員会会議

（平成 30 年 3 月 3 日（土）、山口市湯田温泉セントコア山口）

①平成 29 年度事業報告

②平成 29 年度会計報告、監査報告

③第 32 回学術集会準備状況

④第 33 回学術集会の準備、及び、今後の学術集会の開催について／実行委員長：吉永純子先生（徳島文理大学）

⑤平成 30 年度事業計画、及び予算

⑥次期運営委員選挙のための選挙管理委員の選出

⑦ニュース・レター、学術集会抄録、30 周年記念誌のアーカイブ化について

2) 学術委員会

(1) 第 1 回学術委員会会議

（平成 29 年 8 月 29 日（火）、日本福祉大学東海キャンパス）

第 31 回学術集会（山口）において、特別セミナー「量的分析のイロハ」を企画・運営した。

3) 広報委員会

(1) 平成 29 年度ニュース・レター No.25 を 9 月に発行し、住所不明者 17 名を除く会員 988 名に送付した。

4) 30 周年記念事業

(1) 記念誌が完成し、8 月上旬に地方会会員及び原稿寄稿者等に送付した。

(2) 残金を第 30 回学術集会運営費の補助に充てた。

●平成 29 年度会計報告●

【収入の部】

（単位：円）

費 目	29 年度予算	29 年度実績	差異
前年度繰越金	471,600	471,600	0
地方会補助金	505,000	494,500	- 10,500
ロイ基金より移管	209,846	209,747	- 99
特別会計より移管	0	134,729	134,729
オンライン選挙事務費用	0	0	0
雑収入	57	5	- 52
合 計	1,186,503	1,310,581	124,078

【支出の部】

（単位：円）

費 目	29 年度予算	29 年度実績	差異
郵送費	100,000	90,380	- 9,620
事務費	10,000	18,664	8,664
人件費	10,000	8,000	- 2,000
各種委員会活動費	60,000	1,960	- 58,040
印刷費	82,000	125,928	43,928
記念事業等積立金	100,000	100,000	0
学術集会支援金	150,000	150,000	0
学術集会準備金	300,000	300,000	0
選挙費用	0	0	0
予備費	10,000	0	- 10,000
次年度への繰越金	364,503	515,649	151,146
合 計	1,186,503	1,310,581	124,078

●委員会より●

【学術委員会】

今回のセミナーは、アンケートの作成法、確率や正規分布等の統計法の基礎に関する講義と Excel による操作を実施しました。また、多変量解析できる無料統計ソフト、EZR（自治医科大学附属さいたま医療センターのホームページで無償配布）を説明し、操作をデモンストレーションしました。演習室で Excel を使ってデータ操作することで、*t* 検定における正規分布の根拠等、テキストでの説明が乏しい内容について、数式処理の過程が理解でき、さらに、EZR の紹介で苦手意識の軽減と意欲向上の成果を得ました。

（委員長：祖父江育子）

【広報委員会】

平成 30 年度はニュースレター No.26 をお届けします。第 31 回地方会学術集会（山口）のご報告及び第 32 回地方会学術集会（香川）のご案内、運営委員長のごあいさつ及び地方会の事業報告・事業計画、地方会運営委員選挙のご案内等、地方会のさまざまな活動について会員の皆様に情報発信致します。（委員長：吉本知恵）

●日本看護研究学会中国・四国地方会

選挙管理委員会よりのお知らせ●

平成 27 年度より本地方会の運営委員は各県ごとに選出することになりました。選挙は電子投票で行います。投票受付期間は、平成 30 年 10 月 1 日（月）～ 10 月 31 日（水）までです。詳細は後日、公文書にてご案内いたします。

●平成 30 年度事業計画●

1. 第 32 回学術集会開催

実行委員長：國方弘子先生（香川県立保健医療大学）

日 時：平成 31 年 3 月 17 日（日）

場 所：香川県立保健医療大学

テーマ：今、一度、看護実践を問う臨床研究

ーエビデンスを“つくる”“まとめる”“つたえる”“つかう”ー

2. 平成 30 年度総会開催

日 時：平成 31 年 3 月 17 日（日）

場 所：香川県立保健医療大学

3. 委員会活動

1) 運営委員会

(1) 第 1 回

日 時：平成 30 年 8 月 19 日（日）11 時 40 分～

場 所：日本看護研究学会第 44 回学術集会会場 熊本県立劇場内

(2) 第 2 回

日 時：平成 31 年 3 月 16（土）第 32 回学術集会前日

場 所：高松国際ホテル

2) 学術委員会

(1) 第 1 回

日 時：平成 30 年 8 月 19 日（日）運営委員会終了後～（予定）

場 所：日本看護研究学会第 44 回学術集会会場 熊本県立劇場内

(2) 第 2 回

日 時：平成 31 年 3 月 16 日（土）第 32 回学術集会前日

運営委員会終了後～

場 所：高松国際ホテル

3) 広報委員会

(1) 平成 30 年度ニュース・レター No.26 を 9 月に発行、会員約 1000 名に送付する。

(2) 第 1 回

日 時：平成 30 年 8 月 19 日（日）運営委員会終了後～（予定）

場 所：日本看護研究学会第 44 回学術集会会場 熊本県立劇場内

(3) 第 2 回

日 時：平成 31 年 3 月 16 日（土）第 32 回学術集会前日

運営委員会終了後～

場 所：高松国際ホテル

4. 運営委員選挙

(1) 選挙管理委員は、9 月末日までに会員に公示する。

(2) 10 月 1 日から 31 日まで、Web による投票を行う。

5. その他

(1) 12 月末日までに、30 周年記念誌、ニュースレター、学術集会抄録集をアーカイブ化する。

●平成 30 年度予算●

【収入の部】

(単位：円)

費 目	29 年度実績	30 年度予算案	差 異
前年度繰越金	471,600	515,649	44,049
地方会補助金	494,500	494,500	0
ロイ基金より移管	209,747	0	- 209,747
特別会計より移管	134,729	0	- 134,729
学術集会準備金返金	0	300,000	300,000
オンライン選挙事務費用	0	420,000	420,000
雑収入	5	5	0
合 計	1,310,581	1,730,154	419,573

【支出の部】

(単位：円)

費 目	29 年度実績	30 年度予算案	差 異
事業費	0	100,000	100,000
各種委員会活動費	1,960	60,000	58,040
印刷費	125,928	100,000	- 25,928
人件費	8,000	10,000	2,000
学術集会支援金	150,000	150,000	0
学術集会準備金	300,000	300,000	0
郵送費	90,380	95,000	4,620
事務費	18,664	29,500	10,836
選挙費用	0	420,000	420,000
記念事業等積立金	100,000	0	- 100,000
予備費	0	0	0
次年度への繰越金	515,649	465,654	- 49,995
合 計	1,310,581	1,730,154	419,573

●特別会計（記念事業等積立金）●

【収入の部】

(単位：円)

費 目	29 年度予算	29 年度実績	差 異
前年度繰越金	1,208,190	1,208,190	0
当年度積立金	100,000	100,000	0
ロイ基金より移し替え	0	0	0
雑収入	55	11	- 44
合 計	1,308,245	1,308,201	- 44

【支出の部】

(単位：円)

費 目	29 年度予算	29 年度実績	差 異
事業費	420,000	420,000	0
印刷費	658,800	658,800	0
郵送費	225,500	72,808	- 152,692
事務費	3,000	864	- 2,136
人件費	0	21,000	21,000
委員会活動費	0	0	0
予備費	945	0	- 945
一般会計移管	0	134,729	134,729
次年度への繰越金	0	0	0
合 計	1,308,245	1,308,201	- 44



●事務局だより●

第 31 回学術集会では「学生セッション」が設けられ、大学院生はもとより学部学生からもたくさんの演題が集まりました。今回、卒業研究の成果を発表して、学会デビューを果たした学生さんもおられたと思います。指導教員や友人が見守るなか、緊張しながらも堂々と発表する姿が見られました。フロアからの質疑に自分の言葉で回答しながら、そのやり取りをとおして新たな示唆が得られることも実感したのではないのでしょうか。また、大学教員や現場の方の発表をみて、看護研究の奥深さや面白さを感じ、良い刺激になったと思います。今後の学生の学会参加につきましても、会員の皆様のご支援とご協力をよろしくお願い致します。（事務局：宮本まゆみ）

一般社団法人日本看護研究学会中国・四国地方会第32回学術集会のご案内

2019年3月17日(日)に香川県立保健医療大学で開催することになりました。香川県では3度目の開催となります。初学者からベテランの研究者や看護実践家の皆様が「参加して良かった、意味があった」と思えるような学術集会になればと願っております。多くの皆様の演題申し込みとご参加を心よりお待ちしております。「学生セッション」も設けますので、是非、卒業研究等を発表していただき、研究の面白さを深める場としていただければ、次世代への橋渡しができるのではないかと思います。

実行委員長 國方弘子(香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科)

■テーマ：今、一度、看護実践を問う臨床研究－エビデンスを“つくる”“まとめる”“つたえる”“つかう”－

会期：2019年3月17日(日) 9:00～16:10

会場：香川県立保健医療大学

香川県高松市牟礼町原 281 番地 1

●鉄道をご利用の場合

JR 高松駅から JR 高徳線に乗り換え志度駅下車タクシー 5 分

JR 高松駅から琴電志度線に乗り換え原駅下車徒歩 10 分

●高速バスをご利用の場合

高松中央インターバスターミナルから車で 15 分

高速三木、高速志度から車で 10 分

●車をご利用の場合

志度インターチェンジから車で 10 分

※ JR 高松駅、高松中央インターバスターミナル等より送迎バスあり(有料・事前申込要)



■プログラム

○教育講演

テーマ：押さえておきたい介入研究の方法

講師：吉永尚紀氏(宮崎大学テニユアトラック推進機構看護学系講師)

テニユアトラック制(若手研究者育成事業)の看護学系教員第1号

○学術講演

テーマ：エビデンスを“つくる”“まとめる”“つたえる”“つかう”

講師：大田えりか氏(聖路加国際大学大学院教授)

松村千鶴氏(香川県立保健医療大学教授)

西紋佳奈氏(香川労災病院乳がん看護認定看護師)

○特別セミナー

テーマ：臨床でエビデンスを使う文献検索

○一般演題(口演・示説)

示説に学生セッションを設けます。

★一般演題募集期間 2018年10月1日(月)～2018年11月30日(金)

★事前参加登録期間 2018年10月1日(月)～2019年2月14日(木)

★演題・事前参加申し込み方法は、学会ホームページをご覧ください。

○懇親会

2019年3月16(土) 18:00～ 会場：高松国際ホテル(参加費 5,000円)



(社)日本看護研究学会中国・四国地方会第32回学術集会事務局

香川県立保健医療大学 担当：國方・高嶋・吉本

〒761-0123 香川県高松市牟礼町原 281 番地 1

連絡先 TEL:087-870-1212(代表) FAX:087-870-1202(代表) E-mail:yoshimoto@chs.pref.kagawa.jp

発行 〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1 島根大学医学部看護学科内

一般社団法人 日本看護研究学会 中国・四国地方会事務局

発行責任者 運営委員長/内田宏美 広報委員長/吉本知恵